熊野

くまのたかふみ●鹿児島県鹿屋市 生まれ。コメ記者歴40年、長年「米 穀新聞」の記者を務めてきた。同 紙は2021年10月、堂島コメ市場 認可に伴い廃刊、以後フリーラ ンスとして取材・執筆活動を続け ている。著書に『ブランド米開発 競争』(中央公論新社)など。

> いう標語を盛んに口にしながら、 せず、葬り去った。その一方で、 最も進んだ市場取引形態である 「コメ先物市場」の本上場を認可 市場を設立すべく、実務者による 目民党の要請を受けて新たな現物 農水省は「マーケットイン」と

いう見方もあった。 「ふさこがね」や「ふさおとめ」と 万円下値説には根拠があり、 事前の価格予想では、 (税込み) 以 大幅な値

地元千葉の集荷

第1回検討会を9月17日に開催し が主催するこの取引会は例年、 る声が多く寄せられたことから8 東早期米が出回り始める8月中旬 引会である。千葉穀類連絡協議会 月20日に開催された。 中止されたが、今年は開催を求め に開催される。昨年はコロナ禍で

り、1万円を割るような情勢にな 割るか否かは政治的な要素が加わ 下の概算金は提示しないだろうと 方や農協系統1万円 対策を講じるはずであるという見 ると過去そうであったように国が 治物資とも言えるコメは1万円を ことはないだろうと言われていた。 Bランク米の下値は1万円を割る いったコシヒカリ以外のいわゆる 大方の見方であったが、それでも 下がりは避けられないというのが

上旬には主力のコシヒカリ、中旬 場にお目見えしたのに続き、9月 た。8月盆過ぎに関東早期米が市

21年産米が本格的に出回り始め

には北海道、東北の新米が首都圏

に流入し始めた。

新米がこの時期に出回り始める

ば良いのかに焦点を当て、連載を

日本のコメ作農業・業界が復活す

るためにはどのような市場があれ

かを具体的事例に即して紹介して はどのようにして決まっていくの 解を深めるべく、かつコメの価格

でにその姿を示す計画である。コ

メの市場とは何なのか? その理

た。新たな現物市場は来年3月ま

いくとともに、危機的とも言える

開始する。

かったが、この衝撃的と言うべき これを消費地の卸が即決で買うと がにコシヒカリはそこまで下げな 置場9800円」の売り声をあげ、 業者が開始早々「ふさこがね1等 新米取引会では、 いう展開になってしまった。さす ところが8月20日に開催された

> 成約価格は序曲に過ぎなかった。 それから1カ月後の9月17日

関

とから、ゆめひたち、あさひの夢、 8500円という価格で成約した。 会でも埼玉の彩のかがやきは置場 になっており、実際この日の取引 00円台でなければ売れないよう しているとされ、2等米が多いこ タや着色粒の混入が目立ち、場所 穂形成期の高温や長雨によりシラ 荷が本格化したものの、品位は幼 情報交換会では、コシヒカリの集 約した。取引会の前に行なわれた 者から買いが入り、その価格で成 9200円で売り唱え、消費地業 地元茨城コシヒカリの2等を置場 上取引会では、茨城の集荷業者が Web上で開催された業者間の席 によっては8割方が2等に格落ち 番星など Bランクの銘柄は80

大幅に違う需給見通 農水省と全中の予測

層強まっていること。 大の要因はコメ需給の過剰感が 新米の価格が下げ止まらない最

生産量を国の見通しより16万t多 生産量がほぼ確定したことから、 6月末まで)によると21年産米の 米需給見通し(今年7月から来年 全中がまとめた今年度の主食用 きな環境変化を伴っている。

葉市で毎年開催される新米席上取

全国から注目される取引会は、千

新米の価格動向を知るうえで、

かという政策の本質を揺るがす大

メ政策が本当にこのままで良いの

となった。それは「過剰の下で始 れまでとは違う環境でのスタート のは例年のことだが、21年産はこ

まり」ということに留まらず、コ

1万円下支え機能せず 下げ止まらない21年産米 要となるが、

2年続けての大幅

21年6月末の

民間在庫 21年産米主食用

米生産量

20/21年産

22年6月末の

供給量計 年度内需要量

民間在庫

来年6月末の在庫は210

付転換には国の更なる支援策

22年産についても生産抑制が必

今後の需給見通しの比較

農水省見通し

219

693

912

703

210

要量を国の見通しより19万t少な 量であるのに対して、 するとしている 万七多い244万七となり、 末の民間在庫は国の見込みより34 えた928万七が今年度の総供給 6月末の 在庫量を4万~ い709万七と推計、 684万七と見込み、 民間在庫219万 64 万
も
も
オ
ー これに今年 年度内の需 来年6月 っ t を加 適正

需要動向に関しては、

業態別

0

20年産持越在庫は前年10月末より

るが、

ベ

1

スの需給見通しを作成してい それによると今年10月末の

11

ている。

これほどまで古米在庫が

12

万
も
多
い
63

万tに膨らむと見

表通り主食用の作付面積が6・5 月末の民間在庫210万 tは、 うしたことから国が示した来年6 た21年産米の需要量は前年産に比 北は豊作基調で推移、③国が示し の作柄は順調で、特に北海道・東 しは693万tを上回る、 万ね減少したとしても生産量見通 年産米の生産量について①国 給環境が想定されるとしている。 全中試算とは大きくかけ離れてお 庫量が拡大することが想定され、 大幅にオーバーしていることに加 通し段階からすでに適正在庫量を わずか1万t減少に留まる。こ こうした見通しの根拠として21 (1) (3) (7) 年産米におい 要因によりさらに在 ても厳し ② 全 国 の発 見

(単位:万t)

全中見通し

219

709

928

684

244

ることが危惧される。 更なる21年産米の相場下落に繋が 21年産米の販売期間中に22年産米 なければ達成は困難であり、 がマーケットに発信され 生産抑制が不十分であるとの情 れば、 仮

販

はコメ業界の馴染みがある当年

月~翌年10月までの旧米穀年度

ではない。

コメ卸業界団体の全米

和すると見ているのは全中だけ

玉 需給見通しを示しているのだが、 を要請していることからこうした に21年産米の政府備蓄米追加買入 の家庭用需要にシフトして販売す 産米の業務用銘柄産地は量販店等 が優先的に使用されるため、 縮小しているところに20年産古米 務用需要はコロナ禍により大幅に 販売情勢では、 ることが考えられるとしている。 全中は、米価下落対策として国 外食産業などの業 21 年

米まで手が回らず、

いのもやむを得ず、

結果的に21年 買い気が乏し 処分を優先せざるを得ず、

21年産

残るようであれば卸は20年産米の

の需給見通しよりさらに需給が

恣意的な需給見通 主食用米とは何を意味する

る。

産米の価格下落に拍車をかけてい

21年産主食用米の面積が6・7万 農水省が示した需給見通しでは、 見通しと全中や全米販の需給見通 しはこれほどまでに違うの 今年21年産米の 試減少すれば来年6月末の在庫は 需給見通しは それにしてもなぜ農水省の需給 全農の幹部に言わせると農水省 ほど減少したにも関 昨年の食糧部会で 「虚しい」 作付面積が6 需給見 ところ わら

> と嘆息するのも無理はない 示しており、全農の幹部が「虚 tと適正在庫とは程遠い見通しを

食用米の括りの中には入れていな て加工用米が使われているため主 が食べないと言っているのでは 見なしてい を挙げると冷凍米飯は主食用とは これは農水省が判断している。 万tもある。 いのである。 食用米とは何を指すのかと言うと 主食用米」 予測による違いでそうなったの この原因は単に供給量や需要量 制度上冷凍米飯の原料米とし ない。 農水省の需給見通しは の需給見通し なんとその数量は7 冷凍米飯は人間 で、 主 例

で、これではその見通しが外れる 米需給見通しを作成しているわけ つまり農水省は、 も例はあるが、それは省略する。 カウントしていない。 される外国産米も主食用米として は当たり前である。 それだけではなくSBSで輸 恣意的に主食用 それ以外に

変えなくては効果ある政策が打 まともな需給見通しができるはず いとかで政策判断しているうちは 同じコメを主食用であるとか こうした手法を根本 か

適正在庫との 10~30 44~64 比較 オーバー オーバー 5 適正になるはずであった。 通しだそうだ。 ha

るはずがないのである。